

中学生の  
ための



# 福祉ガイド

〇月★日〇曜日  
直〇〇



## はじめに

私たちは誰にでも、こうありたいと思う「自分らしい暮らし」があります。そして、その暮らしは、社会の中で必ず誰かの「かかわり」があって成り立っています。

例えば、私たちが毎日食べたいと思う「ご飯」を想像してみてください。私たちがご飯を食べるためには、お米を作る人やご飯を炊く人、お茶碗やお箸を作る人など色々な人の「かかわり」があり、その人たちのおかげで私たちはご飯を食べて暮らすことができます。

このように、私たちが自分らしい暮らしを実現するには多くの人の「かかわり」が必要であり、私たちの暮らしの中では、こうした「かかわり」による支え合いがあたりまえのように行われています。そして、一人ひとりが必要とする「かかわり」の内容は、人それぞれ違っています。

お茶碗やお箸を持つことが難しい場合やご飯をお茶碗から口に運ぶことができないならそのお手伝いなどが必要な時もあるでしょう。

このように、誰でも自分らしい暮らしができるように、一人ひとりに合ったお手伝いをするを「福祉=ふくし(ふだんのくらしを しあわせに)」とすることができるとはいいのでしょうか。

この冊子では、みなさんの身の回りにある色々な「福祉」を紹介しています。

家族、友達、地域の人たち、そして自分自身の生活を想像しながら、社会での「かかわり」の中で「自分には何ができるのか」を考えるきっかけとしてほしいと思います。そして、みなさんの中で一人でも多くの方が、こうした「福祉」の担い手となってくださることを願っています。

岐阜県社会福祉協議会  
岐阜県福祉人材総合支援センター  
TEL.058-276-2510

岐阜県福祉人材総合支援センター

検索

中学生のための



# 福祉ガイド

CONTENTS

02 誰もが笑顔で生活できる社会づくり

●高齢者福祉編

04 高齢者とともに生きる  
～人とつながる、社会とつながる～

●高齢者福祉編

06 聞いてみたい、当事者の声

●高齢者福祉編

08 高齢者に関わる職場のお仕事

●障がい者福祉編

10 障がいのある人とともに生きる  
～だれでも人生の主人公になれるよう～

●障がい者福祉編

12 聞いてみたい、当事者の声

●障がい者福祉編

14 障がい者に関わる職場のお仕事

●福祉の現場からのメッセージ

16 ぎふ福祉の魅力知らせ隊!

19 福祉標識図鑑

21 この冊子を手にした皆さんへ

監修・執筆：飯尾 良英 (中部学院大学 人間福祉学部 教授) … 21

執筆：平野 華織 (中部学院大学 教育学部 准教授) …… 02 04 10

# 誰もが笑顔で生活できる社会づくり

## 新しい自立 + エンパワメント

「福祉」という言葉を聞くと何を思い浮かべますか。

お年寄り、介護、障がい者、車椅子：知っているキーワードが出てくると思います。昔の福祉は、貧困者だけをその援助の対象としていました。しかし現代は、貧困に限らず、日常生活を営む上で何かの困難を抱えている人、というような幅広い分野を対象とするようになっていきます。

確かに、辞書で福祉を調べると、「公的なサービスなどを受けて、社会の皆が等しく受けることのできる安心、しあわせ」と書かれています。このように、福祉は介護が必要な特別な人のためだけのものではありません。障がいのあるなしに関わらず、自立して自分らしく生きていくために、私たちがみんなに福祉は必要なのです。

ここでは、中学生の皆さんに福祉の考え方を理解してもらうために、「新しい自立」と「エンパワメント」の2つのキーワードを紹介したいと思います。



### 新しい自立を目指して

どんなに重い障がいがあったとしても、高齢で寝たきりになっても、自立して生活することができます。そう聞くと、みんな驚きますが、本当です。

自立の条件とは何でしょう？ 自分でお金を稼ぐこと（経済的自立）、自分で身の回りのことができること（身辺自立）、ひとり暮らしをすること、結婚すること、いろいろあります。そう考えると、障がいがあったり、要介護状態の人は、自立して生活するなんて無理なのでは？

実は、日常生活のほとんどに介助が必要であるにも関わらず、自立生活を送り、その素晴らしさを世界中に広めた人がいます。エド・ロバーツ (Edward V. Roberts) という人です。

今から約50年前、アメリカのカリフォルニア州に、障がい者自立生活センター (Center for Independent Living) を設立したエド・ロバーツは、「自立生活運動の

父」と呼ばれています。彼は14歳のときポリオ<sup>※</sup>が原因で四肢麻痺、呼吸器障害になった、重度障がい者です。当時は自立といえれば、何でも自分ひとりでできることを意味していました。しかし、エド・ロバーツはそのような考えを真つ向から否定し、次のように考えました。

「障がいや病気で介護が必要であっても、自立生活はできる。毎日の生活をどのように過ごすか、自らの意思で選択し、自ら決定することができていれば、それは自立して生活しているということだ」

「自分ひとりで服を着るのに2時間かかるため出かけられない人間より、他人の助けを借りて15分で身支度をして仕事に出かけられる人間は、自立している」

社会福祉制度を活用し、ヘルパーなどの他者に援助を受けることに罪悪感をもつ必要はありません。自分がどんな暮らしをしたいのかを考え、選択し、その都度決めて生きることこそが自立生活なので、そのために活用で



きる援助があるなら利用しても構わないのです。そもそも障がいの有無に関わらず、私たちは常に何かに依存して生きています。日ごろ食べているものでさえ、自然の恩恵を受け、それをとって加工して販売されたものが、私たちに届いています。みんながお互い頼りあって生きていることが普通なのです。

このように誰にも頼らず、自分ひとりでやるのが自立である、という考えはずで過去のものになっていきます。しかし、中には古い自立の考えのままできて、介護サービスを受けることに抵抗をもつ人もいます。ぜひ

<sup>※</sup>ポリオとは、人から人へ感染する病気です。ウイルスが脊髄の一部に入り込み、手や足に麻痺があらわれることがあります。

## エンパワメント

エド・ロバーツの活動とその意義について、理解を深めて欲しいと思います。

福祉の専門家には、社会福祉士や介護福祉士、ホームヘルパーなどいろいろな人がいますが、共通している主な役割は、エンパワメント（empowerment）です。エンパワメントという言葉

は、本人がもっているあらゆる能力や長所、特技、経験、可能性、希望などの力を引き出すため、生活や地域、社会環境を整えていくことを意味します。

従来の援助の考え方は、福祉の対象者に対して、抱えている困難の原因や不足しているところ、欠点を探り、それを克服できるよう支援するところにありました。しかし、「何ができないのか」「どこに問題があるのか」等の弱

点を中心にした「コミュニケーション」は、相手を否定的に見ることであり、信頼関係は築けません。

それよりも、相手の「できているところ」「頑張っていること」「得意なこと」「やってみよう」「可能性」を中心に話を聞き、本来その人が持っているよきところを引き出すことで、肯定的で明るい希望をもった生活が送れるよう支援することが大事です。このようにエンパワメント

は、自分が人生の主人公となるよう自信をつけて、自分自身の生活をよりよくしていくことです。障がいのある人や、病気の人の対し、できないことを支援するというより、その人の長所、強さをより伸ばしていく支援をするのが、福祉の役割といっても過言ではありません。

現在、福祉の現場では、「新しい自立」と「エンパワメント」の理念のもと、たくさ

んの福祉専門職が活躍しています。そして、その人たちの援助を活用して、病気や障がいがあっても自分らしく人生を歩んでいる人も大勢います。誰かの幸せを願うなら、あなたも幸せでなければなりません。福祉を通して、誰もが笑顔で生活できるような社会をつくっていきましょう。

## 新学期

今日から君たちの担任をつとめます！ よろしく！



さあ、3人と一緒に「福祉の現場」を見に行こう！



レンくん

中学2年生。自分が興味を持ったものに対しては探究心が強い。性格は自由奔放。

サクラさん

中学2年生。勉強はまんべんなくできる方。性格は冷静沈着。

ダイスケ先生

中学校教諭。原因不明の疾患により、高校生の時に下半身不随となり、以降、車いすでの生活に。当時お世話になったクラス担任に憧れ、教育の道に進む。

まずは自己紹介!!



## 高齢者 福祉編



# 高齢者と ともに生きる

～人とつながる、社会とつながる～

**2025年には  
高齢者の5人に  
1人が認知症に!?**

みなさんの周りのおじいさん、おばあさんはどのように暮らしていますか？仕事や家事、パート、畑仕事、趣味のグラウンドゴルフ、散歩など忙しくしている人もいれば、病気や加齢により医療や福祉のサービスを受けている人もいるでしょう。長い人生、高齢になってからも地域の中で自分らしく楽しく暮らしたいものです。

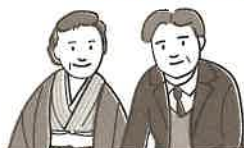
日本人の平均寿命は、1950年は男性58.0歳、女性61.5歳でしたが、2017年では男性81.09歳、女性87.26歳、そして2065年には、男性84.95歳、女性91.35歳と予想されています。また、2015年は65歳以上の高齢者の約7人に1人が認知症患者でしたが、2025年には約5人に1人になると見込まれています。このように、高齢になることで、身体が不自由になったり、記憶力や判断力が低下する認知症になったりして、生活で支援を必要としている人もいます。

## 日本人の平均寿命

1950年

男性 58.0歳

女性 61.5歳



2065年

男性 84.95歳

女性 91.35歳



出典：厚生労働省「平成29年簡易生命表の概況」、内閣府「平成30年版高齢社会白書」

## 日本の認知症患者数(65歳以上)

2015年



7人に1人

2025年



5人に1人

出典：内閣府「平成28年版高齢社会白書」

## 人や社会と つながることで 豊かに生きられる

寝たきり、要介護、認知症、このような言葉を聞くと、もし自分や自分の家族がそうになったらどうしよう、と不安になる人が多いと思います。つらく、暗い、不安な生活を強いられるのでしょうか。絶望の

日々になるのでしょうか。

いいえ、それは違います。認知症や身体の不自由さと上手につきあい、それをきっかけに多くの人とつながり、地域の中で自分らしく楽しく生活している人はたくさんいます。その理由は、近年、入所施設以外にもデイサービスやショートステイ、グループホーム、認知症カフェなど、高齢者やその家族を支

える場所が増えていることと、支援の必要な高齢者とその家族をサポートする力強い味方「ケアスタッフがいるからです。

このような場所へ実際に出かけると、あなたの思い込んでいる高齢者福祉のイメージとはかなり違うことに、きっと驚くでしょう。優しいケアスタッフに囲まれて行う歌や体操などのレクリエーションでは、みんな明るい笑顔と笑い声が絶えません。意思疎通が難しい人であっても、ひとつひとつ丁寧に気持ちを確認し、自分が生活の主体となれるよう、支援が受けられます。家族も、介護がきっかけで、自助グループとつながったり、ケアスタッフとの交流があったり、変化が生まれます。

高齢期を自分らしく豊かに生きするには、人とつながり、社会とつながることが、とても大事だと思います。あなたも、ぜひ高齢者福祉の施設へ行って、多くの人とつながることを感じてみてください。



# 聞いてみたい、 当事者の

高齢者福祉編

# 声



「歌を詠むことが  
生きがいです」



REPORT 1

## 施設を利用し サポートを受けることで 家族の気持ちも前向きに



へきよう何を…思いだそうと  
考える途切れ途切れてきて  
繋がらず)

定年退職後に短歌教室に

入り、歌を詠むことを趣味に  
していた田島保男さん(81)。

70歳でアルツハイマー型認知

症と診断されました。冒頭の

句は、認知症の症状が出始め

た頃に書いたもので戸惑い

が表現されています。

妻の多恵子さん(75)は、



保男さんの変化を間近で見

てきて「この先どうしよう」

と不安がよぎったと振り返

ります。症状が進むにつれ、

スムーズなやり取りができる

ことが減り、怒ることもあつ

たと言います。そんな時、短

歌教室の先生に「保男さんの

歌を本にしないか」と誘われ

ました。本にするために保男

さんの1300首の短歌を読

み返す中、保男さん自身も認

知症に対して不安に思ってい

ること、それでも前向きに生

きようとしていることを知

り、イライラしても仕方にな

いと吹っ切れたと言います。

現在、保男さんは週3回、

安八郡神戸町のデイサービ

スセンター「夢の郷」に通っ

ています。多恵子さんは「保

男さんは暗くて重たい空気  
が苦手。ずっと2人でいると  
煮詰まってお互いがイライラ  
してしまうこともあるので、  
家族以外の人と関わる時間  
を持つことは大切なこと。何  
をしたのか忘れてしまうこ  
とは多いが、楽しい時間を過  
ごしてほしい」と利用を決め  
ました。



「夢の郷」では、日常生活

の介助を受けたり、歌謡曲を

歌ったりして過ごしていま

す。保男さんは今でもしっか

りと歩くことはできますが、

短歌は4年ほど前から詠む

ことができなくなりました

し、自分の思いを言葉でしっ  
かりと伝えることもできま

せんが、歌を歌っている時は

幸せそうな笑みを浮かべるこ

とが多いと言います。施設長

の箕浦崇徳さんは「保男さん

が以前に読んだ句(傍らに明

かり灯して本を読むああ妻

が居るこれを幸せ)のように、

多恵子さんと一緒にこれから

も家で暮らせるよう支えて

いきたい」と話しています。

多恵子さんは「周りのサ

ポートのおかげで『認知症に

なってもそんなに大変じゃな

いのよ』という気持ちでいま

す。これからもしっか寄り

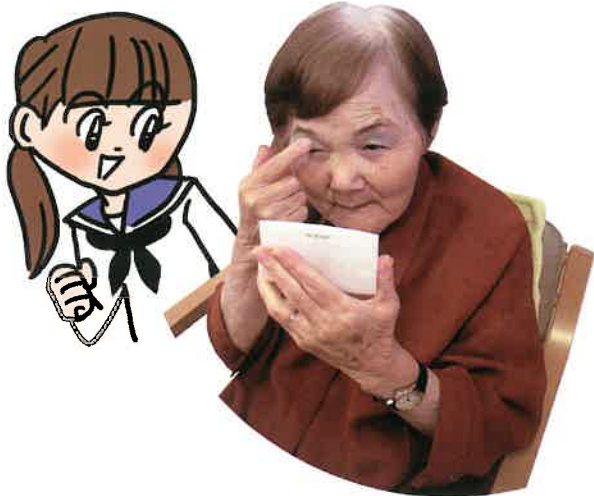
添っていききたい」と話してい

ます。





さきかが  
元化粧品販売員さん！  
オシャレは  
欠かさないんですわ



みなさんは認知症や障がいを持った方と接したことはありますか。中には自分の親戚など、そのような方々が身近な存在である人もいるかもしれません。この「聞いてみたい、当事者の声」では、そのような福祉サービスを受けている人たちの実際の「暮らし」や「思い」を紹介します。

REPORT 2

職員や友人に支えられ  
住み慣れた地域で過ごす  
穏やかな日々

「若い時はね、真っ赤なかばんを持ってスカート履いて」。化粧品販売員をしていた時のことをうれしそうに振り返る認知症の鈴木ミチ子さん（86歳、仮名）。数分後にもまた、楽しそうに同じ話をします。少し前に話したことを覚えていないため同じ話を何度も繰り返す一方、昔のことはしっかりと覚えているというのは認知症の方によくみられる症状です。そのため、鈴木さんが暮らしている羽島市のグループホーム「わおん」の職員は、何度聞いた話であってもにっこり笑って聞き続けます。

グループホームとは、自宅で生活することが難しくなった認知症の高齢者5〜9人が



一緒に暮らしている施設のことと言います。鈴木さんは、10年ほど前に夫を亡くし、しばらくは1人暮らしをしていました。徐々に認知症の症状が出始め、夜間に1人でいることに不安を感じるようになったため、グループホームでの生活を始めました。

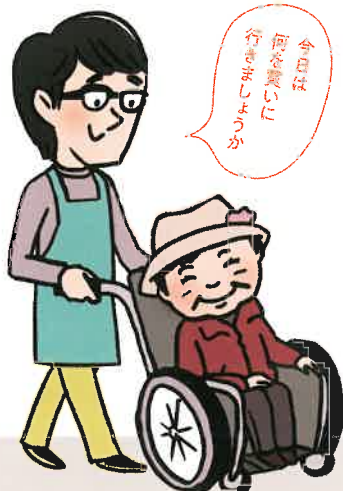
グループホームには常に職員がいますが、家庭のような落ち着いた雰囲気の中で、

食事の準備や掃除などの家事はできる限り高齢者自身が行います。鈴木さんも職員のサポートを受けながらであれば料理を作ることでもできます。職員はその人らしさも大切にしており、今でもおしゃべりの関心が高い鈴木さんが、毎朝、慣れた手つきで化粧をする姿も優しく見守ります。食事や入浴以外の時間は、パズルや計算ドリルなどをして過ごします。子ども頃、算数が得意だったというので、計算は今でもお手物です。

グループホームは、住み慣れた地域でできる限り今ま



浴衣姿もステキですよ！



でと同じように暮らすことも目指している施設なので、職員と鈴木さんと散歩に出かけたり、鈴木さんに会いに友人が来たりすることもできます。40年以上前から親しくしている友人は月に何度か顔を出し、喫茶店や買い物に連れて行くこともありません。そんな時、鈴木さんはいつも以上に「機嫌な様子」。このように鈴木さんは認知症を患いながらも、友人や職員に支えられながら、穏やかな日々を過ごしています。



冷たくて美味し〜♪

# 高齢者に関わる 職場のお仕事

介護を必要とする高齢者は、自宅で生活を続ける方、施設へ入所する方など様々です。そうした生活を支えるために、在宅・施設を問わず福祉の現場では、介護を行う職員だけでなく多くの職種の職員が働いています。どんな仕事をしているのでしょうか。

## 介護職員・ホームヘルパー

介護を必要とする方の生活全般にわたってお手伝いをします。施設などではレクリエーション活動などを通じて、いきいきと生活できるように工夫しています。また、在宅では、慣れ親しんだ住まいの中で、日常生活の一部をサポートしたり、家族の方には、介護の技術的な助言をしたり、悩みをお伺いしたりすることで、利用者のその人らしい生活を応援しています。

取得が望ましい資格

- 介護福祉士(国家資格)
- 介護職員初任者研修の修了

※ホームヘルパーの場合は介護福祉士または介護職員初任者研修の修了が必要です。

介護ではその人らしい生活が送れるためにも、「何でもしてあげればいい」わけではなく、できない部分をサポートすることが大切なんだね。



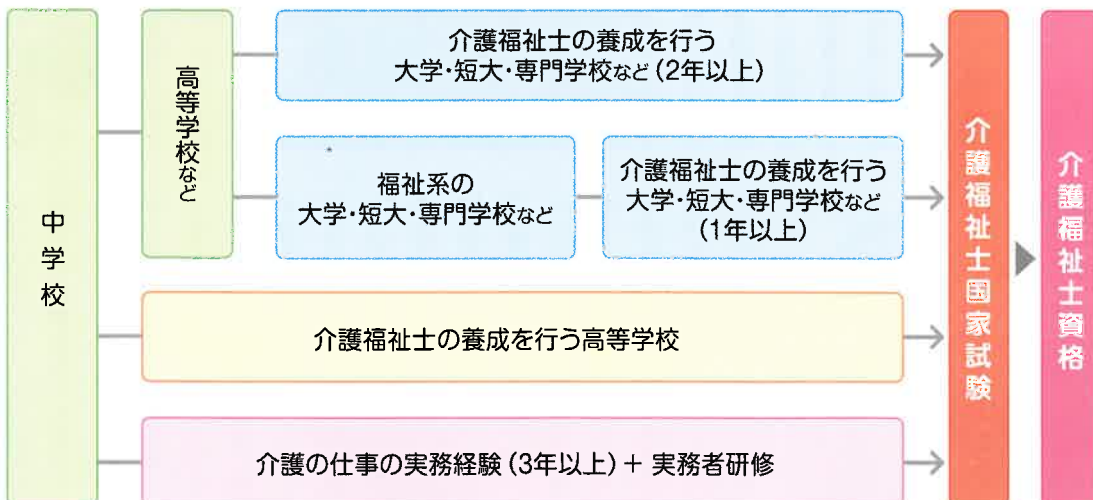
### 福祉の資格 PART ①

介護の仕事は、「介護福祉士」または「介護職員初任者研修」の修了が望ましく、より専門性の高い「介護福祉士」の取得を目指すことがおすすめです。

## 介護福祉士

介護福祉士は、専門的な知識と技術をもって、身体または精神に障がいがあることにより日常生活を営むのに支障がある人の心身の状況に応じた介護を行い、その人およびその介護者に対して介護に関する指導を行います。

### ●介護福祉士になるためには…(主な資格取得ルート)



## 生活相談員

利用者・家族・職員の間で調整するキーパーソンです。利用者や家族の方と相談し、よりよい生活をするためにはどのようなサポートが必要となるのかを一緒に考えます。

取得が  
望ましい  
資格

- 社会福祉士 (国家資格)
- 社会福祉主事 (任用資格)



## 介護支援専門員 (ケアマネージャー)

自宅や施設内で暮らす高齢者などを対象に、いつまでも自分らしい生活を送るため、どのような介護サービスを受けられるかアドバイスし、ケアプランと呼ばれる介護の計画を作成します。

必要な  
資格

- 介護支援専門員 (公的資格)

## 看護師・准看護師

各種処置など医療行為を行うとともに、健康管理のアドバイスをしたり、病院等との調整や衛生管理、感染予防などを行い、医療面から利用者をサポートします。

必要な  
資格

- 看護師 (国家資格)
- 准看護師 (公的資格)

## 管理栄養士・栄養士

個々の利用者の身体や体調の状態に応じた献立を作成し、食生活の改善や栄養指導を行います。

必要な  
資格

- 管理栄養士 (国家資格)
- 栄養士 (公的資格)



## 理学療法士

身体機能や身体能力が維持・回復するように、医学的リハビリテーションを行います。

必要な  
資格

- 理学療法士 (国家資格)

## 作業療法士

老化や病気などに伴う、身体または精神の維持・回復に向けて、工作や手芸などの作業活動により機能の回復や維持、主体的な活動の機会をサポートします。

必要な  
資格

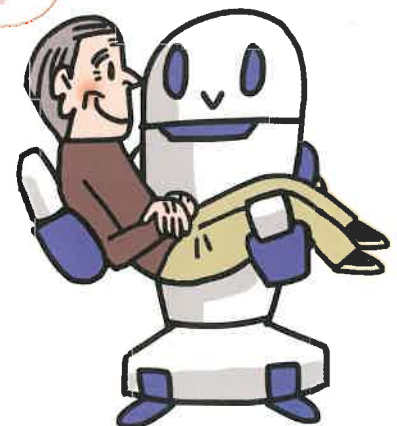
- 作業療法士 (国家資格)

最近では、  
介護ロボットを使って  
職員さんの負担が減る工夫も  
されているんだね。

### 「介護職員初任者研修」とは?

介護職員初任者研修は、介護に携わる人が、業務を遂行する上で最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようにするための研修です。

初任者研修を修了した方は、3年以上の実務経験と実務者研修を受講することで、「介護福祉士」の国家資格を受験する資格を得ることができます。





## 障がい者 福祉編

# 障がいのある人と ともに生きる



～だれでも人生の主人公になれるよう～

障がいは  
その人を取り巻く  
地域や社会の側にある

障がいのある人とは、どのようなことを指すのでしょうか。車椅子に乗っている人、目が見えない人、耳が聞こえない人、知的発達が遅い人、耳が聞こえない人、知的発達がゆっくりな人などが挙げられると思います。障がいを医学的、生物学的な側面で捉えるなら、心身機能、能力の低下を指し、いわゆる〇〇ができない人という言葉で表現されることがあります。

しかし、社会的な側面では、障がいは、個人の心身の側にあるのではなく、その人を取り巻く地域や社会の側にあるのだという捉え方をします。

1950年代、デンマークのバンク・ミケルセン (NeBank Mikkelsen) が提唱した「ノーマライゼーション」という理念は、障がいのある人をノーマル(普通)な人へ変えようとするのではなく、障がいのある人を取り巻く生活や地域、社会の環境をノーマ



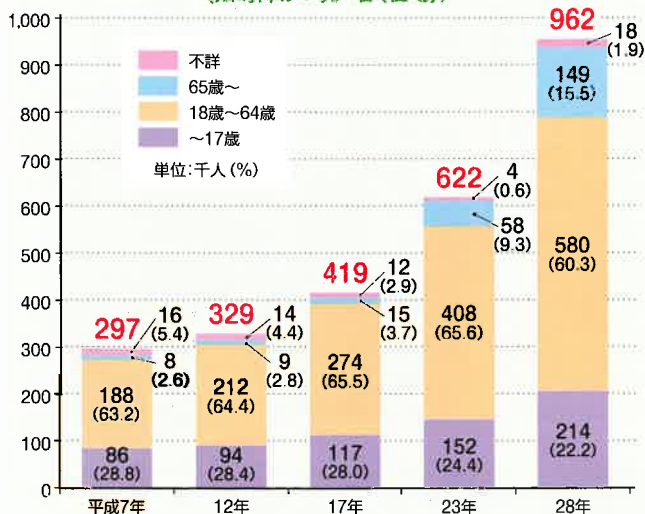
現在、障がいのある人たちがノーマルに生活できるような、様々な取り組みがなされています。例えば、どんなに重い障がいのある人でも、必ず潜在的な能力、長所があります。病院や施設、介護事業所、グループホームなどのケアスタッフたちは、この人の好きなことは何か？伸ばしていける特技は何か？などいろいろな可能性を探って

院や施設、介護事業所、グループホームなどのケアスタッフたちは、この人の好きなことは何か？伸ばしていける特技は何か？などいろいろな可能性を探って

## その人の長所や経験などが活かせる生活環境づくり

ル(普通)に変えていきましようという考え方です。この理念は多くの人の共感を呼び、瞬間に世界中へ広がりました。皆さんも一度は聞いたことがあると思います。私たちは誰もがノーマルに生活できるように、社会を変えていく必要があります。

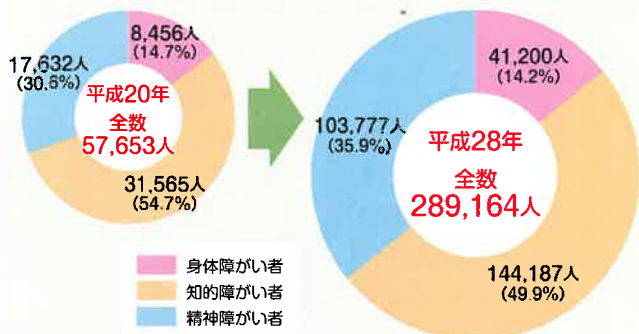
### 年齢階層別障がい者数の推移 (知的障がい児・者(在宅))



四捨五入で人数を出しているため、合計が一致しない場合がある。  
内閣府「平成30年版 障害者白書」を加工して作成。

### 福祉サービスを利用して働く障がい者の数

就労継続支援(※)は、全ての障がい種別において、利用者数が大きく増加しています。



※企業や事業所で働くことが困難な方のために、働く場を提供して、技術の向上などを旨とするサービス。  
厚生労働省「平成29年 障害者雇用の現状等」を加工して作成。

くれます。そして、その人がもっている長所、得意なこと、希望、経験などが生かせるような生活環境をつくり、障がいのある人がだれでも人生の主人公として生活できるように支援してきます。

障がいは不便であり、苦勞するものだという古くからのイメージが現代でも残っていますが、実際にはケアスタッフや同じ障がいをもつ仲間らの支援を受けて、自分らしく充実

した人生を送っている人がほとんどです。そのためにも、障がい福祉サービスを提供する施設や事業所が増える必要があります。みなさんの身近にも、障がいのある人たちの働く作業所や生活する施設、グループホームがあるはずですよ。ぜひ訪問してボランティアをしたり、一緒に活動したりしてみてください。きっと、障がいのある人たちから学ぶことがたくさんあるはずですよ。



# 聞いてみたい、 当事者の

# 声

障がい者福祉編



県立衛生専門学校の文化祭で看護師の卵らに、子どもの頃のことや病気のどなどを発表する「ほっとのぼっと」メンバーの精神障がい者ら。

REPORT 1

## 自信を少しずつ取り戻し 一般枠で就職 家族との関係も良好に



小学生の時は元気だったのに中学3年生になったころから不安な気持ちでいる時間が増えていったという佐藤由美子さん（38歳、仮名）。

高校に通ったりしていましたが、障がいを受け入れられない父親との折り合いは悪く、不安は増すばかりでした。

藤さんに、舟伏の総合施設長の森敏幸さんは「障がい者枠で求人している企業で働いてみない？」と声を掛けました。それから4年半、佐藤さんはホテルで清掃の仕事をしました。「もう大丈夫」と思った佐藤さんは最近、食品会社に転職しました。障がい者枠ではなく一般枠です。

森さんは「舟伏に来るようになってしばらくはマイナス思考だったが、プラス思考になるうというメッセージを送り続けた。ある日、佐藤さんの口から『ピンチはチャンス』という言葉が出て、これほどまでに前向きになれたんだと思ううれしかった」と振り返ります。それでも佐藤さんは、今でも症状を抑える薬は欠かせません。「薬をやめたらなどと言われることもありますが、なくてはならないもの。薬で症状を抑えるという点は他の病気と同じ。精神障がい者のことを特別な存在と思わず、普通に接してほしい」と話しています。

「少しずつ考えられる範囲が狭くなっていく感じだった」と振り返ります。精神障がいと認定され、16歳の時には1年間、精神科の病院に入院し、1度に10錠以上の薬を飲む生活を続けました。退院後はリハビリ施設や通信制の

とき、岐阜市の社会福祉法人舟伏で就労支援を受けることになったことです。舟伏が営む岐阜病院内の売店やパン工房で1回1時間から働き始め、徐々にペースをつかんでいきました。同じように精神障がいや悩む人のグループ「ほっと♡ほっと」にも参



大学や高校、市町村のボランティア養成講座などで体験を語ることも。

就職後、職場の人に障がい者手帳を持っていることを打ち明けましたが、受け入れてくれたと言います。変わっていく姿に父親も喜び、今では一緒に旅行に行くほど関係が良くなりました。



自分自身を  
振り返って...

自信を取り戻していき

自信を取り戻していき

自信を取り戻していき





このページでは、  
障がい者福祉サービスに焦点を当てます。  
あなたの知らなかった  
「当事者の声」がここにあるはずです。

REPORT 2

責任感を持ちながら  
楽しく作業する姿に  
家族、職員が寄り添う

関市の共同作業所「あおぞらの家」でクッキーづくりを励む猿渡正人さん(41)。職員の大竹幸雄さん(56)らのサポートを受けながら、クッキーの生地がゆっくりと、慎重にトッピングのジャムを乗せていきます。すらすらとではありませんが時折、簡単な言葉も交わします。

正人さんは幼い頃から重度の知的障がいがあり、大竹さんと出会った17年前はほとんど話せない状態でした。大竹さんは障がい者と接する仕事に就いて間もない頃で、どう接したら良いかわからないでいました。ある日、先輩職員に「ただ横に寄り添って、どんな具合なのかを見るのが大切」とアドバイスをもらい、そっと寄り添いなが



ら言葉が掛けるという接し方に変えました。3、4年ほど経った頃から、正人さんは徐々に話せるようになり、楽しそうな表情を見せる回数も増えてきました。

言葉の数は今でも増え続けています。長年、作業所を利用しているため、正人さんは今では自分自身を「職員」と位置付けているようで、率先して片付けをするなど責



キレイに  
焼けますよと



任感を持つてできることをこなししています。大竹さんは「言葉や雰囲気を感じることが、障がいの有無とは関係ありません。ただ障がいにより表現しにくいだけ。『話し掛けたってわからない』ということではないですし、対等な人間としてこれからもしっかりと向き合っていきたい」と話しています。

家族も力を合わせて正人さんを支えています。父清美さん(75)と母幸子さん(68)は「親がいつまでも一緒にいることはできない。自立できる環境を」と、同じ考えの親らと力を合わせ、障がい者が暮らすグループホームの設立に向けて動きまわりました。

2017年秋に完成し、現在正人さんは職員のサポートを受けながら、5人の障がい者と一緒に暮らしています。土日は自宅で過ごしますが、自宅に帰る時もグループホームに戻る時もどちらもうれしそうだと言います。正人さんには兄と姉がおり、2人とも仕事を考える際、迷わず障がい者福祉の世界を選びました。清美さんは「正人の祖母は、正人のことを『福の神』と言いました。確かにみんなが『正人を守らないといけない』と意識していて、おかげで家庭がうまくいっています」と話しています。



# 障がい者に関わる 職場のお仕事

先ほどは高齢者に関わる職場のお仕事を  
紹介しました。今回は様々な支援を必要とする  
障がい者に関わるお仕事を紹介します。  
職種もそうですが必要な資格なども違う  
ので、高齢者福祉の場合と比べてみましょう。

仕事の内容によって  
いろいろな資格が  
あるのね。



## 生活支援員・ホームヘルパー

施設などで、利用者の衣服の着脱や食事、入浴等、日常生活を通して生活習慣を身につけるお手伝いを行うほか、各種の相談にのる仕事や創作・生産活動、レクリエーションなど幅広い業務を行います。在宅では調理や洗濯、掃除などの家事援助、入浴、排せつなどの身体介護を行います。また、買い物などの外出支援も行います。

- 介護福祉士 (国家資格)
- 社会福祉士 (国家資格)
- 社会福祉主事 (任用資格)
- 精神保健福祉士 (国家資格)
- 介護職員初任者研修の修了

※ホームヘルパーの場合は介護福祉士または介護職員初任者研修の修了が必要です。



### 福祉の資格 PART②

障がい者本人や家族からの相談にのる仕事は、少なくとも社会福祉主事の資格を持つことが求められます。さらに専門性の高い「社会福祉士」や「精神保健福祉士」の取得を目指すことがおすすめです。

## 社会福祉士

専門的な知識と技術をもって、体や精神に障がいがある人や生活環境上の理由から生活に支障がある人に対して、福祉に関する相談に応じたり、アドバイスしたりします。

### ●社会福祉士になるためには…〈主な資格取得ルート〉





## 相談支援専門員

障がい者福祉に関する様々な問題について、利用者・家族・関係機関との間に立って調整するキーパーソンです。障がい者本人や家族からの相談にのり、必要な情報提供や障がい福祉サービスの利用計画支援などを行います。

必要な資格

●相談支援従事者初任者研修の修了

## サービス管理責任者

障がい福祉サービス事業所において、本人の能力に応じて、具体的な支援内容を考え、「個別支援計画」を作成します。また、サービスの提供に関し、事業所内の職員に対して、技術的な指導や助言を行います。

必要な資格

●相談支援従事者初任者研修およびサービス管理責任者等研修の修了

## 言語聴覚士

話す機能や聞く機能に障がいがある方に対して、機能回復を図る専門職です。

必要な資格

●言語聴覚士(国家資格)

こんなに多くの職種のプロが働いているから利用者の方も家族も安心して任せられるんだ!



## 視能訓練士

見る機能に障がいがある方に対して、機能回復を図る専門職です。

必要な資格

●視能訓練士(国家資格)

## 義肢装具士

失った手足の代わりにする義肢やコルセットなどを作成し、日常生活上の機能を補い、社会復帰を応援する専門職です。

必要な資格

●義肢装具士(国家資格)

## 就労支援員

就労系のサービス事業所において、利用者の就労に向けた支援等を行います。職場実習や面接会への参加などを支援します。また、就職後も職場訪問や家庭訪問を行うなどアフターケアをします。

取得が望ましい資格

●障がい者の就労支援の経験者が望ましい

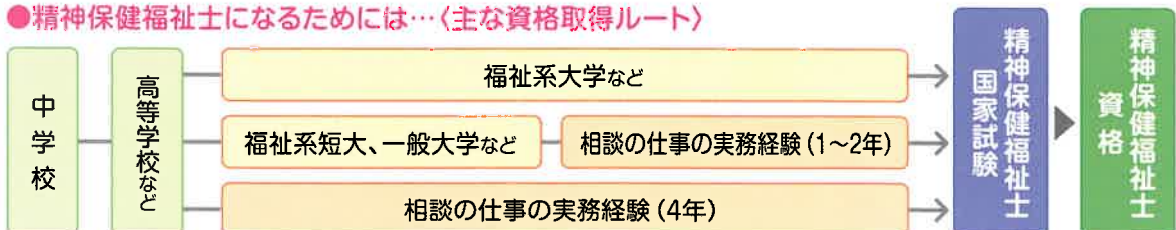
### 福祉の資格 PART③



## 精神保健福祉士

専門的な知識と技術をもって、精神障がいのある人に対して、社会復帰に向けた相談に応じたり、病院などの退院後の住居や再就労の場などについてのアドバイスをします。

●精神保健福祉士になるためには…〈主な資格取得ルート〉





私たちが

# ぎふ福祉の魅力 知らせ隊です!

じっくり  
聞いてみよう!

どんなお仕事が  
あるのかな?



『ぎふ福祉の魅力知らせ隊』とは、

県内の福祉施設等で働く方から公募により選ばれた22名の隊員による組織です。

岐阜県福祉人材総合支援センターのキャリア支援専門員と共に、県内の中学校、高等学校等を訪問して福祉の仕事に関する啓発講座や進学相談、就職フェア等におけるPR活動を行っています。

隊員の皆さんが普段どんな仕事をしているのか、ちょっとだけのぞいてみましょう。



時間を見つけては  
高齢者の元へ行き  
会話をします。



高齢者が楽しめるよう、季節行事でも奮闘中!



施設の設計にも携わりました。完成した時はうれしかったですね。



お経を読むこともあります。高齢者も夢中になって一緒に読んでくれますよ。

## INTERVIEW ① (社)井ノ口会



介護老人福祉施設「瑞光苑」  
(岐阜市)

施設長 河合 誠さん

### ●福祉施設で働くようになったきっかけは?

仏教系の大学に進み僧侶の資格を取りましたが、卒業後は紡績会社で営業をしていました。やりがいはありましたが、数字に追われない仕事に就き、相手としっかり向き合いたいと思うようになりました。そんな時、知的障がい者向けプールでアルバイトをしていた時のことを思い出しました。楽しくてやりがいがあったため、福祉施設で働きたいと思っていた矢先、知り合いに老人ホームで働かないかと誘われ、就職しました。

### ●どんな仕事をしていますか?

約5年間は、生活相談員・介護職員をしていました。寝たきりの方と関わったことなどなく、初めは戸惑いの連続でしたが、高齢者に頼ってもらえたり、他の法人の見学に行つて良い点を見つけたら上司に伝えて取り入れてもらったりなどを重ねるうちに夢中になっていきました。

6年目頃からは仕事の中心が事務・管理となりました。施設を次々とオープンさせる時期でしたので、建設会社や行政とのやり取りも担当しました。思い描いた施設が形になっていく姿を見ることができてうれしかったですね。

高齢者のケアをすることは、今はありませんが、月1回、デイサービス施設でお経を読んでいます。歌以上にお経に親しみを感じる高齢者は多く、一緒に読んでくれます。思わぬ形で学んだことを生かせてうれしいですね。

INTERVIEW 2

(社) 善心会

特別養護老人ホーム「ラック」  
(安八郡神戸町)

事務長 小島 隆之介さん



●福祉施設で働くようになったきっかけは？

父が建築家で、父が設計した長野県の福祉施設がオープンするにあたり事務員が足りないということで誘われたのがきっかけです。

20年以上前のことで、当時は今ほど福祉施設が一般的ではありませんでした。しかし「これから高齢者も施設ももっと増えていく。とても未来のある仕事」だと感じ、働くことを決めました。4年間働き、出身の岐阜に帰ってきて、今の職場で働きはじめました。

●どんな仕事をしていますか？

私は事務の仕事をしています。高齢者のケアをする介護職員とやり取りする時間は多いです。介護職員がより良いケアをするには「この職場で頑張ろう」と思える環境づくりが大切です。入って間もない職員と面談し、悩みがないかを聞いたり、ベテランであってもこまめに声を掛けたりしています。また、しっかり休んでもらえるよう、体制づくりにも力を入れています。

介護職員の方たちは、他の職種にはなかなかない、熱い思いを持っています。働いて間もない人は、仕事をどんどん覚え、ケアをして感謝されていくうちにどんどん熱くなっていきます。それぞれの思いを受け止めることは大変ですが、介護職員が力を発揮できるよう、これからも支えていきたいですね。



事務仕事はミス厳禁。チェックは念入りに。

職員に改善して欲しい点を書いてもらっています。



介護職員への声掛けは大切なこと。悩みがあったら言って。



ラックの玄関にはサメが!! 地域の人もよく見に来てくれます。



介護のデータを見ながら職員にアドバイス。

ベッドから車椅子へよっこいしょ!



あーん。よく噛んで飲み込んでくださいね。



リハビリや体操も付き添います。グーッパーツ!

INTERVIEW 3

(医) 仁寿会

介護老人保健施設「アルマ・マータ」  
(多治見市)

介護主任 橋本 龍さん



●介護職員になったきっかけは？

高校生の時、卒業後は何か資格を取得し、それを生かして働きたいという気持ちと、人と関わる仕事がしたいという気持ちを持っていました。福祉の専門学校に進んで介護福祉士の国家資格を取得して福祉施設で働けば、その2つの夢がかなうのではと考え、専門学校に進みました。専門学校での授業や実習を通して、介助をしながら会話も楽しめる介護の仕事は自分に向いているのではと思い、卒業後、アルマ・マータに就職しました。

●現在の仕事内容は？

今は主任として、介護職員40人を教育する立場です。施設内をくまなく回り、介護の方法で悩んでいる職員がいたらより良い方法を考えてアドバイスしたり、忙しいときは私も高齢者の食事やリハビリに付き添ったりしています。

●やりがいは？

高齢者から感謝の言葉を掛けていただけることが一番のやりがいです。自分たちも自然に笑顔になれますね。リハビリに関わることもあるので、今までできなかったことができるようになっていく姿を見られるのもうれしいことです。

主任としてのやりがいは、仲間の成長を感じられる点です。職員が成長し、職員同士がスムーズに連携を取れるようになることで、介護の質も上がっていきます。職員1人1人と信頼関係を築きながら成長をサポートしたいですね。

INTERVIEW ④

(社)たんぼ福祉会

共同作業所「恵那たんぼぼ作業所」  
(恵那市)

労働担当 家高 るみ子さん



主にたんぼ福祉会で働きたい人への面接の取組みなどを行っています。

配膳も手伝います。熱いので気を付けてくださいね。

車椅子の方が移動する際にはお手伝い。

夜勤の日は見回りも。まれに体調を崩している場合もあるので欠かせないことです。

●障がい者施設で働くようになったきっかけは？

高校生と中学生の子どもがいるのですが、2人目を出産した後、10年ほど自宅でインターネットの接続に関するオペレーターをしていました。その仕事は電話で話すことばかりで、人と会うことはありませんでした。そのため、人と触れ合う仕事がしたいと思っていたところ、恵那市の社会福祉法人「たんぼ福祉会」のwebデザイナーの仕事を見つけたため、3年前に転職しました。

●どんな仕事をしていますか？

社会福祉法人たんぼ福祉会では、主に知的障がい者の生活支援と作業支援をしています。「働くことは生きること」という理念のもと、230人の利用者全員が、何らかの作業に携わっています。

私は皆さんが作業している時間は、事務所でホームページの作成や労務関係のデスクワークをしていますが、支援員として夜勤もしています。食事や入浴、トイレ等、家庭での生活に近付けられるような支援を心掛けています。

●やりがいは？

時には同じことを何度とも言わないといけないことがあります。イライラしてしまうこともありますが、彼らには裏表がありません。ふとした時に心の底からの笑顔で「ありがとう」と言ってもらえると、これからも頑張ろうという気持ちになれます。

INTERVIEW ⑤

(社)飛騨慈光会

障がい者支援施設「高山山ゆり園」  
(高山市)

支援員 金子 楓さん



●支援員になったきっかけは？

もともとは保育士になりたくて、岐阜市内の短大の幼児教育学科に進学し、実習で障がい者施設へ行きました。それまで知的障がい者と関わったことはありませんでしたが、実習を通じ、たとえ話さなくても、思っていることや感じることが人それぞれあると知りました。その方たちの本当の思いを知りたくなり、支援員になることを決めました。

●どんな仕事をしていますか？

高山山ゆり園では48人が生活しています。日中だけ過ごす人も22人います。その方たちの食事や入浴、体操やパズルなどのレクリエーションを手伝ったりしています。

話すことができない方も多いのですが、言葉を理解することはできるので、しっかりと話し掛けてコミュニケーションを取るようにしています。また、表情をしっかりと観察し、今どんな気持ちでいるか、何をしたいと思っているかも探っています。

●やりがいは？

夜勤の日は1人で多くのことをしなければなりません。利用者の介護をしながら、体調の悪い方を気にかけてたりと慌ただしく、くじけそうになる時もありますが、何かしたときに利用者がニコッと笑ってくれたり、ありがとうと言ってくれたりするとうれしいですね。その瞬間があるからこれからも頑張ろうという気持ちでいられます。



車椅子の方の移動のお手伝いは任せて！

豆を皿に入れる練習…。お上手ですね。

食べたい物を選んでもらいます。どれにしますか？

〇〇さんは今日、38度の熱があつて…。帰る前に情報共有。



# 福祉標識図鑑

公共施設や商業施設、車やかばんなど、さまざまな場所で福祉に関するシンボルマークが表示されています。難病や障がいを抱える方たちを思いやり、配慮し合うために役立っています。



## 障害者のための国際シンボルマーク

障がい者が利用できる建物、施設であることを明確に表すための世界共通のシンボルマークです。このマークは「すべての障がい者を対象」としたもので、車椅子を利用する障がい者に限定し、使用されるものではありません。駐車場などでこのマークを見かけた場合には、障がい者が利用できるように配慮しましょう。

窓 公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会  
TEL.03-5273-0601 FAX.03-5273-1523



## 盲人のための国際シンボルマーク

世界盲人連合で1984年に制定された盲人のための世界共通のマークです。視覚障がい者の安全やバリアフリーに考慮された建物、設備、機器などに付けられています。信号機や国際点字郵便物、書籍などで身近に見かけるマークです。

窓 社会福祉法人日本盲人福祉委員会  
TEL.03-5291-7885



## 身体障害者標識 (身体障害者マーク)

肢体不自由であることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマークで、マークの表示については、努力義務となっています。危険防止のためやむを得ない場合を除き、このマークを付けた車に幅寄せや割り込みを行った運転者は、道路交通法の規定により罰せられます。

窓 警察庁交通局交通企画課  
TEL.03-3581-0141代



## 聴覚障害者標識 (聴覚障害者マーク)

聴覚障がいであることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマークで、マークの表示については、義務となっています。危険防止のためやむを得ない場合を除き、このマークを付けた車に幅寄せや割り込みを行った運転者は、道路交通法の規定により罰せられます。

窓 警察庁交通局交通企画課  
TEL.03-3581-0141代



## ほじょ犬マーク

身体障害者補助犬法の啓発のためのマークです。身体障害者補助犬とは、盲導犬、介助犬、聴導犬のことを言います。身体障害者補助犬法において公共の施設や交通機関はもちろん、デパートやスーパー、ホテル、レストランなどの民間施設は、身体障害のある人が身体障害者補助犬を同伴するのを受け入れる義務があります。

窓 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室  
TEL.03-5253-1111代 FAX.03-3503-1237



## 耳マーク

聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマークでもあります。聴覚障がい者は見た目には分からないために、社会生活上で不安が少なくありません。このマークを提示された際は、相手が「聞こえない・聞こえにくい」ことを理解し、コミュニケーションの方法等への配慮についてご協力ください。

窓 一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会  
TEL.03-3225-5600 FAX.03-3354-0046



## オストメイト用設備 / オストメイトマーク

オストメイトとは、がんなどで人工肛門・人工膀胱を造設している排泄機能に障がいのある障がい者のことをいいます。このマークはオストメイトであることと、オストメイトのための設備(オストメイト対応のトイレ)があることを表しています。

窓 公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団  
TEL.03-3221-6673 FAX.03-3221-6674



## ハート・プラスマーク

身体内部に障がいがある人を表しています。身体内部(心臓、呼吸機能、じん臓、膀胱・直腸、小腸、肝臓、免疫機能)に障がいがある方は外見からは分かりにくいので、様々な誤解を受けることがあります。このマークを着用されている方を見かけた場合には、電車の優先席に座ってもらうなど内部障がいがある方への気配りを心がけましょう。

窓 特定非営利活動法人ハート・プラスの会  
TEL.080-4824-9928



「白杖SOSシグナル」  
普及啓発シンボルマーク  
(社会福祉法人 日本盲人会連合推奨マーク)

白杖を頭上50cm程度に掲げてSOSのシグナルを示している視覚に障がいのある人を見かけたら、進んで声をかけて支援しようという「白杖SOSシグナル」運動の普及啓発シンボルマークです。白杖によるSOSのシグナルを見かけたら、進んで声をかけ、困っていることなどを聞き、サポートをしてください。駅のホームなどで視覚に障がいのある人が危険な場面に遭遇しそうな場合は、白杖によりSOSのシグナルを示していなくても、声をかけてサポートをしてください。

窓口 岐阜市福祉部福祉事務所障がい福祉課  
TEL.058-214-2138 FAX.058-265-7613



障害者雇用支援マーク

公益財団法人ソーシャルサービス協会が障がい者の在宅障がい者就労支援並びに障がい者就労支援を認めた企業、団体に対して付与する認証マークです。障がい者の社会参加を理念に、障がい者雇用を促進している企業やこれから促進したいという思いを持っている企業は少なくありません。このマークが企業と障がい者の橋渡しになることが望まれます。

窓口 公益財団法人ソーシャルサービス協会 ITセンター  
TEL.052-218-2154 FAX.052-218-2155



ヘルプマーク (JIS規格)

義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に知らせることができるマークです。このマークを身に着けた方を見かけたときは、電車で席をゆずる、困っているようであれば声をかける等、思いやりのある行動を心がけましょう。

窓口 東京都福祉保健局障害者施策推進部計画課社会参加推進担当  
TEL.03-5320-4147



介護マーク

認知症の方の介護は、他の人から見ると介護していることが分かりにくいいため、トイレの付き添いの際など、誤解や偏見を持たれることがあります。そのため、県では、認知症の方などの介護中であることを周囲に理解していただくため、「介護マーク」を作成し、市町村窓口などで配布しています。

窓口 岐阜県高齢福祉課  
TEL.058-272-8296 (内線:2599)

岐阜県でも  
始まるみたいだね!



「ぎふ清流おもいやり駐車場制度」ってなに?

パーキングパーミット制度



車椅子用駐車場



おもいやり駐車場

車椅子マーク等が表示された駐車場において、「健全者による不適正な利用がある」、「見た目上障がいがあると分からない方が利用しづらい」という問題を解決することを目的に、駐車場を利用できる対象者の要件(歩行が困難な方)を設定し、利用証を交付する制度です。利用証を持っている方は、下記のマークが表示された駐車場に駐車する際、利用証を車内に掲示することで、対象者であることを周りに示します。

一般的には「パーキングパーミット制度」と呼ばれており、全国37府県3市で導入が進んでいます(2019年2月現在)。岐阜県では2019年10月から制度を開始します。

## 「この冊子を手にした皆さんへ」

人類の努力によって「福祉」の考え方も、随分と進歩してきました。「福祉」は、困っている人を「保護する」「<sup>ほどこ</sup>施す」から、幸福に生きる権利を保障し、自分らしく生きられるように「支援する」、社会的な活動をいいます。

全ての人々と社会にとって、「福祉」の役割は不可欠なものになっています。あなたが住んでいる地域や身の回りを見渡してください。一人暮らしの高齢者や認知症の家族を抱えている家族、障がいや病気に負けないで一生懸命頑張っている人、複雑化する社会のなかで人や社会にうまく適応できない人、仕事や病気で苦しんでいる人など、福祉を必要とする大人や子どもが増えています。そこであなたにお願いがあります。

まず、世の中には様々な困難や障がい、病気を抱えて生きている人たちがいることを知ってください。街で買い物をするときや電車に乗ったとき、自転車で道路を走るときなど、あなたの近くに支援や配慮が必要な人が居るかもしれません。

そして、今の自分にできることは何かを考えてください。「何かお手伝いできることがありますか」と声をかけること、席を譲ること、道を空けてあげること。見守ること。あなたに合った方法で心を寄せてください。

関心を持ったらもう一步踏み出して、支援するための知識や技術を学んでください。簡単なことは、学校の教科や体験学習、ボランティア活動等で学ぶことができます。もっと深いことは、高校や大学・短大、専門学校で学んでください。支援するためには、心理や法律・制度、医療や看護、介護、レクリエーション、栄養食事、支援教育など、幅広い学びが必要です。取得したい資格や将来の職業と合わせて考えてください。

最後に、「福祉の仕事」の魅力を感じてください。人口減少社会によってどこの産業も人手不足がおきています。需要が急増している福祉分野では今後多くの人材を必要としています。福祉の仕事は、支援する人もされる人も共に成長していく素晴らしい仕事です。福祉の3Kは、「感謝、感激、感動」と言われます。人々の幸せや社会の平和と安定をつくり出すために働く、とてもカッコいい、クリエイティブな仕事であることをお伝えしたいと思います。

知的障がい児施設「近江学園」創設者で日本の福祉に大きな影響を与えた糸賀一雄先生の言葉に、「この子らを世の光に」とあります。「この子らに世の光を」ではありません。「障害を持つ人びとが放つ光は、まだ世を照らしていない。人間のほんとうの平等と自由は、この光を光としてお互いに認めあうところにはじめて成り立つ」というものです。どんな人でも輝ける、一生懸命に生きることが素晴らしいことであり、光を放つ大切な存在であることを訴えています。中学生のあなたも、個性的で周囲に光を放つ大切な存在であることを忘れないでください。

監修：中部学院大学 人間福祉学部 教授 飯尾 良英

中学生のための



# 福祉ガイド

2019年3月

発行 ● 岐阜県、岐阜県社会福祉協議会

年 組

名前